



チーム出東

夢と希望にあふれる学校

○進んで学ぶ子

○やさしい子

○元気な子

○ふるさとを愛する子



出東小学校 令和8年度学校だより NO.9 9月11日号 文責：秦 康人

元気な子

令和8年度 斐川町相撲大会

9月8日(火)に、「斐川町相撲大会」が開催されました。会場は例年通り岩野薬師相撲場で、今年度も斐川町内の小学生が力と技を競いました。本校からは4～6年生の希望者9名が選手として出場しました。

9月2日(水)から始まった練習では、すり足、ぶつかり稽古、試合などの練習に取り組みました。今年度も地域で相撲に携わっていらっしゃる江角 悟さんを指導講師にお招きして、専門的な指導を受けることができました。

大会当日は、午後からの天候が心配されましたが、幸い雨が降らずに最後まで大会を終えることができました。平日にもかかわらず、たくさんの保護者の方や地域の方が応援に駆けつけられ、とても盛り上がった相撲大会になりました。



★成績★

○3位

- ・小学5年生以下団体戦
- ・女子個人戦 福島明奈さん

出東小の選手たちは、体の大きな他校の選手に正面からぶつかり、思い切って取組にのぞんでいて、とても立派でした。身体の高い他校の選手に思い切りぶつかっていったり、最後まで諦めずに土俵際のねばりで体を入れ替えて勝ったりなど、全員が持っている力を出し切ってがんばる姿がたくさん見られ、とても良い大会になりました。成績も「5年生以下団体戦」と「女子個人戦」で3位を取ることができ、とても良くがんばった選手たちでした。





家庭と学校が手を取り合い、子どもの学びを支えるために ～身の回りの整え方と「くらしのきまり」について～

本号では、学校での生活習慣や持ち物について、特に「くらしのきまりを守ることの意義」と「身の回りを整えることの大切さ」について、お伝えする機会とさせていただきます。

○「上履きデコ」の広まりと背景

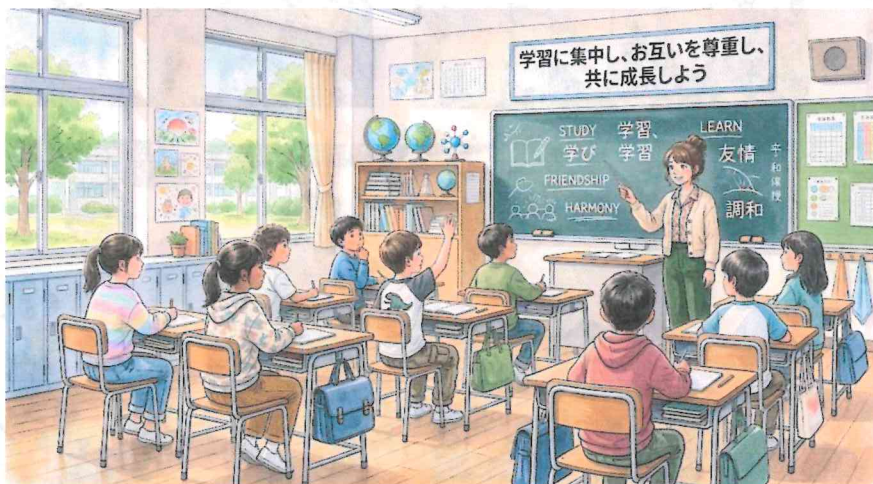
最近、小学生の間で「上履きデコ（デコレーション）」という言葉や工夫が話題になることがあります。「上履きデコ」とは、本来無地やシンプルなデザインである学校指定の上履きや白いズックに、イラストを描いたり、専用のシールを貼り付けたり、カラフルな靴ひもを装着したりして、自分好みに装飾することを指します。自分の持ち物を可愛らしく、あるいは格好よくアレンジしたいという気持ち自体は、子どもたちの自然な創作欲求や自己表現の芽生えとして理解できる面もあります。しかし、こうした流行の背景には、消費を促すためのマスコミによる取り上げや、関連商品を販売する企業のマーケティング戦略が大きく関わっていると考えられます。テレビやSNS、雑誌などを通じて「おしゃれで魅力的」「自分らしさを出す工夫」として繰り返し発信されることで、いつの間にか子どもたちの身近な文化として浸透していくのです。



○一人の「ちょっとした工夫」が周りに与える影響

ご家庭の中や休日のお出かけの際におしゃれを楽しむことは、個人の自由であり素晴らしいことです。しかし、大勢の児童が集まり共同で生活や学習を行う学校という場においては、その事情が異なります。「少しみんなと違うものにしてみたい」「ちょっとしたお洒落のつもり」という軽い気持ちで施された装飾であっても、集団生活においては想像以上に大きな影響を周りに及ぼします。

装飾やアレンジが次々と波及し、徐々に過度な競い合いへと発展したり、特定の児童が目立つ工夫をすることで、羨ましさや疎外感を抱く子どもが出てきたり、「どうして自分だけ買ってもらえないの」「みんなやってるよ」といった家庭内での不必要な摩擦を生んだりすることが考えられます。



個人の楽しさや自己主張が、知らず知らずのうちに誰かに影響を与えたり、集団の輪を乱したりすることがあるという視点を、私たちは大人が導きとして子どもたちに伝えていかなければなりません。

○学校での服装や持ち物に求められる配慮

学校は、子ども一人ひとりが落ち着いた環境で知識や知恵を蓄え、集団の中で健全な人間関係を育むための学びの場です。そのため、学校での服装や持ち物には「学習に集中できること」「安全であること」「みんなが安心して過ごせること」に相応しい選択が求められます。本来の学習目的から逸脱した不要なものを持ってきたり、派手な服装や装飾によって周囲の気を引こうと（自己アピールしようと）したりすることは、学校生活の場としては相応しくありません。

○本校におけるズック（上靴）の規程

本校におけるズック（上履き・体育館シューズ）の基本的な約束事項についてご確認ください。

【ズックに関する本校のきまり】

- ・指定の上くつ、または、白を基調とし、運動しやすいズックとする。
- ・1・2年生はひものないタイプ。3年生以上はひもタイプも可（ひもはしっかりと結んでく）。
- ・購入先は自由。
- ・高学年児童は、中学校の体育館シューズでもよい。

これらのきまりは、単なる形式的なルールではありません。例えば「白を基調とする」「過度な装飾をしない」という点は、集団での余計な視覚的刺激を減らし、全員が対等で落ち着いた姿勢で生活できるようにするための配慮です。「運動しやすいもの」「ひもをしっかりと結ぶ」といった点は、体育の授業や非常時の避難において、子どもたちの安全と身体を守るための必然的な基準です。基本の形を正しく守って履くことこそが、安全で快適な学校生活の第一歩となります。

○「くらしのきまり」を守ることの大切さ

社会に出ると、私たちは様々なルールやマナー、秩序を守りながら他者と共存しています。学校における「くらしのきまり」は、子どもたちが将来、社会の一員として他者を思いやり、適切な判断力を身につけるための大切な経験の場です。「これくらいなら大丈夫だろう」「自分一人くらいなら」という考えは、時に集団全体の秩序や安心感を損なう結果に繋がります。自分がやりたいことを何でも自由に表現するのではなく、「今、ここはどのような場なのか」「自分の行動が周りにどう受け止められるか」を自ら考え、行動をコントロールする力（自己統制力）を育むことこそが、本当の意味での成長だと考えています。

○キッズケータイや子ども用 GPS 等についての学校のスタンス

また、今年度に入り、保護者の皆様から「キッズケータイや子ども用 GPS（位置情報検索端末）などを学校へ持たせてもよいのか」といったお問い合わせを数件いただいております。登下校中の安全確認や、放課後の習い事・連絡手段としてご家庭で導入されるケースが増加している背景があり、お子様の安全を心配されるお気持ちは理解できます。しかしながら、学校におきましては、これら通信機器・電子機器についても基本原則として「教育活動および学習に不要なものは学校へ持ってこない」というスタンスを大切にしております。それには、主に以下のような明確な理由や懸念が存在するためです。

第一に、「高価な精密機器の管理とトラブル防止」という側面です。これらの機器は非常に高額であり、破損や紛失、水濡れなどのトラブルが発生した場合、学校や教職員では十分な管理・保障・補償などの責任を負いかねるのが現状です。

第二に、「集団生活における心理的な影響と配慮」です。ランドセルやポケットから機器を取り出して見せ合ったり、機能やデザインを比べ合ったりする場面が生じると、学校生活の落ち着いた雰囲気が損なわれます。さらに、「持っている子」と「買ってもらえない子」の間で不必要な羨ましさや疎外感が生まれたり、「友達が持っているから自分も欲しい」と家庭内での葛藤を引き起こしたりするなど、他の児童やご家庭へ思わぬ影響を与える恐れがあります。



第三に、「学習への集中と学校ルールの徹底」です。防犯機能や通知音、位置情報の検索などが意図せず授業中や校内で作動してしまうと、クラス全体の集中が途切れ、教育活動の妨げとなってしまいます。

以上の理由から、本校では原則としてキッズケータイや子ども用 GPS 等の校内への持ち込みをお断り

しております。

ただし、特別な事情などにより、どうしても持参が必要であるとお考えになる場合は、個別に学校（担任または教頭）まで事前にご相談ください。なお、ご相談をいただいた場合であっても、状況や理由によっては持参をお断りさせていただくこともございますので、あらかじめご理解とご協力をお願い申し上げます。

○ご家庭へのお願い

子どもたちが「学校という公の場にふさわしい選択」を正しくできるようになるためには、学校での指導だけでなく、保護者の皆様の温かいご理解とご指導が不可欠です。今回は「上履きデコ」「キッズケータイ等」を例として取り上げましたが、それ以外にも、企業の販売戦略やマスコミの報道の仕方によって、様々なブームが訪れると予想されます。学校へ持っていくもの、身につけるものや服装が学習に相応しいか、ご家庭でも一緒に確認してください。ルールや工夫についてお子様から相談があった際は、「なぜ学校ではシンプルなものが推奨されるのか」「周りのみんながどう感じるか」をぜひ話題にしてみてください。家庭での好きなおしゃれや個性の発揮と、学校での規律ある生活。このメリハリを意識できるよう声かけを重ねていくことで、子どもたちは状況に応じた身だしなみや振る舞いを学んでいきます。

今後とも、子どもたちが安心・安全な環境で充実した学校生活を送ることができるよう、教職員一同、丁寧な指導に努めてまいります。ご家庭におかれましても、本校の教育方針ならびに「くらしのきまり」への一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



—放課後の校舎内への出入りについて—

防犯上等の理由から、**今後は放課後の出入りは18時までとさせていただきます。その際は昇降口ではなく、玄関（校庭側）から入って、職員室へ一言声をかけてください。**

また、「ドリルやノートを持って帰るのを忘れた」という用件での出入りもありましたが、**「忘れ物は取りに来ない」ことを基本とします。**ただし、薬やめがね等日常生活や健康に支障をきたすものについては、ご相談ください。できるだけ忘れ物をしないことを、ご家庭でも指導いただきますようお願いいたします。

【寄贈のお礼】

斐川ライオンズクラブ様より、町内の特別支援学級へ助成金をいただきました。本校は17,000円をいただき、これをもとに学級の備品購入にあてたいと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

お子様や学校のことでお困りのこと、ご心配なことがありましたら、担任まで遠慮なくご相談ください。また、担任以外にも下記の職員を相談窓口としております。

- ・小川恵美（教頭） ・勝部修治（不登校・いじめ対応CN） ・石倉綾美（養育教諭） ・金築裕司（特別支援教育CN）
- ・三島真弓（スクールカウンセラー） ・太田桂子（スクールソーシャルワーカー）